

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●慶応・環境情報学部

編集者として、本の構成を提案するという問題。一見ものめずらしいが、実は、近年おなじみのプレゼンテーション型の問題の変形だ。ただし、今回は資料の読解が重視されている点で、ここ数年の傾向とは異なっている。

9つの文章を大ざっぱに整理すれば、文章Aは、行政の関係者が、地域住民とどのように協力しながら汚染された川の浄化に取り組んだかという証言。Bは、国際的な環境レジームがどのような要因によって決定されるかを分析している。Cは、科学的にもものを見るとはどういうことかを原理的に考察した文章。Dは、生物種が独自の生態的地位を占めることで生態系が安定する仕組みを説明している。Eは、SF小説が現実世界に対してどんな機能を果たせるかを論じている。Fは、震災直後から被災地を撮り続けたカメラマンが、現地の声に耳を傾けるべきだと訴えている。Gは、湾の成因を説明しつつ、日本では人工的な原因で自然の海岸が失われていることを述べている。Hは、南極のオゾンホールがなぜ起こるのかを説明した、かなり専門的な文章。Iは、成長と競争を重視する経済の法則と、「不足のなさ」と分かち合いを重視する地球の法則のどちらを選択するべきかを問いかけている。

以上の文章の中から、本に収録する6つの文章を選ぶことが求められているわけだ。

そもそも「高校生編集者」であることが前提とされているので、それほど専門的なテーマを考える必要はない。高校生にも十分伝わるような本作りを考えるほうがよいだろう。

編集する本のシリーズ名が『地球と人間』で、9つの文章の多くが環境問題がらみであることを考えれば、実はテーマの選択肢はそれほど多くはない。最もわかりやすいのは、「環境問題を考えるきっかけとなる本を作る」というもの。そうすれば、C、E、Fあたりが外れるはず。また、もう少し深く、「科学の見方と自然観の変化」などをテーマとすれば、A、B、Fあたりが外れるはずだ。いずれにせよ、重要なのはどの文章を選ぶかではなく、テーマと編集方針が明確かどうかだろう。

タイトルを考える問題は、あまり考えすぎず、各文章や本全体のメインテーマを簡潔にまとめるだけでよい。

問題2と3はもちろん連動しているので、3から先に考えるほうがよい。ただ、本の序文という性格上、第2部と第3部の書き方を少し工夫する必要がある。第1部で本のテーマと編集方針をズバリ示した上で、第2部で今、そのテーマの本を作ることの意義をくわしく説明

し、第3部で各文章の内容と本のテーマとのつながりを具体的に説明する。そして第4部でもう一度本のねらいを簡単に示すようにすれば、うまくまとまるはずだ。

問題2は、本のテーマと編集方針が明確であれば、簡単に書けるはず。基本型A・Bにはしにくいので、1つずつ、テーマに合わない理由を簡単に説明すればそれでよい。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>